

2023年3月期「第3四半期(2022/4-2022/12)」

第3四半期 (億円)	JAL			ANA		
	2022	2021	2019	2022	2021	2019
国際座キロ(千万席キロ)	2705	1683	4163	2408	1496	5272
国際旅キロ(千万人キロ)	1913	408	3675	1799	374	4050
国際旅客数(千人)	2950	594	7325	2817	549	7733
国際旅客収入	2871FSC	470FSC	4013	2903	482	5080
国内座キロ(千万席キロ)	2655	1788	2760	3713	2454	4494
国内旅キロ(千万人キロ)	1714	891	2022	2314	1209	3194
国内旅客数(万人)	2235	1198	2914	2487	1320	3472
国内旅客収入	3355FSC	1740FSC	4279	3921	2065	5535
LCC収入	201	18		620	245	
貨物郵便	1834	1610	691	2747	2564	977
営業収入	10055	4984	11308	12586	7380	15821
営業費用	9901	6879	10107	11596	8538	14625
燃油費	2416	1018	1896			
EBIT/営業利益	347	-1833	1146	989	-1158	1196
経常利益			1284	923	-1183	1225
純損益	163	-1283	748	926	-1028	864

・EBIT=財務・法人所得税前損益 (税引前損益から利息等の財務収支を除いたもの)

《ANAグループLCC》

ピーチ	当 2022/4-12	前 2021/4-12
収入(億円)	620	245
旅客数(千人)	5613	2922
座キロ(千万席キロ)	905	555
旅キロ(千万人キロ)	641	333
利用率	70.9%	60.0%

《ANA貨物》

	当 2022/4-12	前 2021/4-12
国際貨物収入(億円)	2561	2377
国際貨物輸送重量(千トン)	622	743
国内貨物収入(億円)	186	187
国内貨物輸送重量(千トン)	194	189

注：ANAは無配方針を継続(2023.02.02)

(JAL 配当予想の修正)

・今期については、キャッシュ・フロー創出力が着実に回復していること、通期での黒字化が見込めかつ航空需要も来期に向け着実に回復する見通しであることから、当期の期末配当を行う予定とします。

配当金予想は1株あたり20円を予定しております。

《ZIPAIR》

4-12月	2021 第3四半期	2022 第3四半期
有償旅客(人)	11526	306107
有償旅キロ(千)	38152	1518934
有効座キロ(千)	1013178	3303124
席利用率(%)	3.8	46.0

《スプリング・ジャパン》

4-12月	2021 第3四半期	2022 第3四半期
有償旅客(人)	51828	340051
有償旅キロ(千)	49368	281766
有効座キロ(千)	100001	556187
席利用率(%)	49.4	50.7

《第3四半期(2022年4-12月)》

(有利子負債)

・JAL：2022年3月末より363億円減少し8921億円

- ANA:2022年3月末より1254億円減少し1兆6246億円
(自己資本率)
- JAL:2022年3月末比1.3ポイント低下の32.3%
- ANA:2022年3月末比0.9ポイント改善の25.7%

【両トップ年頭の挨拶】

《ANA》

◆年頭の辞：ANAHD社長(ウイングデイリー.0105)

- 耐えるから大きく跳ねる年へ転換点「足元業績順調、世は明けつつある」

芝田社長は「ちょうど1年前を振り返ると、第3四半期が8四半期振りに黒字(営業利益)に転じ、(当時の)片野坂社長(現会長)の年頭の所感には“夜明けは近い”とあるが、その後、国内ではコロナの第6波、第7波の感染拡大があったものの、需要は徐々に回復し、22年度上期は3年振りに黒字化を達成する事ができた」ことを振り返りつつ、「足元の業績も順調に推移しており、夜は明けつつあると感じる」とコメント。

2023年度について、「引き続き回復需要を着実に取り込み、収益の更なる拡大を目指す」とし、「持続可能な航空燃料(SAF)の導入や航空機以外のCO2削減等脱炭素にも積極的に取り組むとともに、コロナ感染再拡大、ロシア・ウクライナ情勢、為替・燃油費動向、更には世界経済の減速等、私たちの事業に大きな影響を与えるリスクも注視していく」とコメント。

「あわせて、現在ANAグループの次期中期経営戦略策定を進めており、2030年に目指す姿の実現に向けた変革の計画に留まらず、世界中のグループ社員一人ひとりがやりがいを感じながら力を発揮し、その結果がお客様満足、経済的価値、社会的価値の向上に結びつくような戦略にしていく」ことにも言及した。

《JAL》

◆年頭の挨拶：JAL社長(ウイングデイリー.0105)

- 2023年は回復と復活の一年に
- サステナブルな未来へ向けて企業価値向上

航空業界にもようやく明るい兆しが見えはじめた一年となりました。

JALグループは、2021-2025年度中期経営計画に則り、安全・安心な社会とサステナブルな未来を創る決意を込めた「JAL Vision2030」の実現に向け前進してまいりました。

今年は、コロナ禍という未曾有の危機により、一度は失われた価値あるものをもう一度取り戻す、「回復」と「復活」の一年にしたいと考えております。

【2022年度9月期決算】第2四半期(上期決算)

【JALとANAの「上期」決算対比】(4-9月期)

(前年比)	JAL(4-9月)			ANA(前年比)		
(億円)	2022 上期	(7-9月)	2021 上期	2022 上期	(7-9月)	2021 上期
営業収入	6185 (+3279)	3497	2906 (+959)	7907 (+83.4%)	4402	4311 (+1392)
営業費用	6372	3342	4429 (+235)	7592 (+38.8%)	4075	5471 (-256)
EBIT/営業損益	+3 (+1521)	+278	-1518 (+721)	314 (+1474)	327	-1160 (+1649)
営業外損益				-12	-69	-65
経常損益				302 (+1457)	258	-1155 (+1531)
特別損益				0	-	+58
税引前損益/純損益	-28 (+1036)	+167	-1064 (+563)	195 (+1183)	185	-988 (+896)
親会社所有者損益	-21 (+1028)	+174	-1049 (+563)			
EBITDA	834 (+1459)		-625 (+739)	1023 (+1448)	685	-375 (+1532)

《営業費用の内訳》

JAL		上期(4-9月) (前年比)	ANA	
2022	2021		2022	2021
1548	589 (+143)	燃油費/燃油費・燃料税	1705 (+903)	802 (+389)
241	162	施設使用料/空港使用料	268 (+74)	193
679	690	機材費/航空機材賃借費	648 (+86)	562
	895 (+6)	減価償却費	679 (-21)	700 (-163)
477	344 (+47)	整備費/整備部品・外注費	644 (+248)	395 (-205)
1392	1225 (-83)	人件費	925 (+163)	761 (-66)
93	28 (+20)	販売手数料/販売費	227 (+107)	119 (-74)
		外部委託費	949 (+135)	814 (-130)
1028	851	その他	678 (+190)	488 (-95)

6372	4429(+235)	合計	6728(+1888)	4840(-305)
------	------------	----	-------------	------------

注：人件費や整備費は両グループで定義が異なり比較せず、前年比のみ注目

【上期決算その実力対比】

《財政状態》

JAL			ANA	
2022上期	2021上期		2022上期	2021上期
8322	5502	流動資産	14104	10796
10371	10644	固定資産	18557	19984
8622	8920(+350)	(航空機)	9376	9944(-1322)
831	877	(建設仮勘定)	1773	2170
2950	2739	(繰延税金資産)	2554	2800
24485(+2943)	21542(+1599)	総資産	32674(+1874)	30800(+3354)
6140	4284	流動負債	7398	6652
1081	662	(1年以内)	-	646
10140	8469	固定負債	16802	22745
	21542	純資産	8474	8054
7809	8471	自己資本	8413(+417)	7996
31.9	39.3	自己資本率	25.7%	26.0%
9238	7012	有利子負債	16399	16368
		手元流動性資金	9970	8208

注：ANA 自己資本=純資産-非支配株主持分

ANA 純有利子負債 6428 億円 (2021/9=8159 億円)=有利子負債-手元流動性

ANA 手元流動性=現金及び預金+有価証券

(ANA 純有利子負債の推移)

	2019/3 末	2020/3 末	2020/6 末	2020/9 末	2021/9 末	2022/9 末
有利子負債	7886 億円	8428 億円	1 兆 3589 億円	1 兆 3155 億円	1 兆 6368 億円	1 兆 6399 億円
純有利子負債	4949 億円	6042 億円	7820 億円	8633 億円	8159 億円	6428 億円

・ANA の純有利子負債は前年比マイナス 1731 億円と減少した

《キャッシュフロー》

JAL			ANA	
2022 上期	2021 上期		2022 上期	2021 上期
-28	-1544(+738)	(四半期純損失)	302	-1213(+1466)
		(雇用調整助成金)	-44	-140
1202	-958(+541)	営業 CF	+1909	-778(+1131)
-567	-988	(固定資産取得支出)		-740
0	-125	(有価証券取得支出)		-13
		(有価証券償還/収入)		3642
-525	-1040	投資 CF	-977	2083
102		(短期借入金純増)	-80	-
23	1711	(長期借入/返済)	317	-370
-	298	(社債発行)	-	199
		(社債償還)	700	-
-266	1639	財務 CF	-1120	-191
5429	3729(+263)	現金等期末残高	6100	4817(+307)
830	893	減価償却費	747	784
597	-1114	投資(固定資産)	483	804
677	-1999(-107)	フリーCF	+1502	-1258(+1294)
834	-625(+739)	EBITDA(営利+減償)	1023	-424
		EBITDA マージン%	12.9	

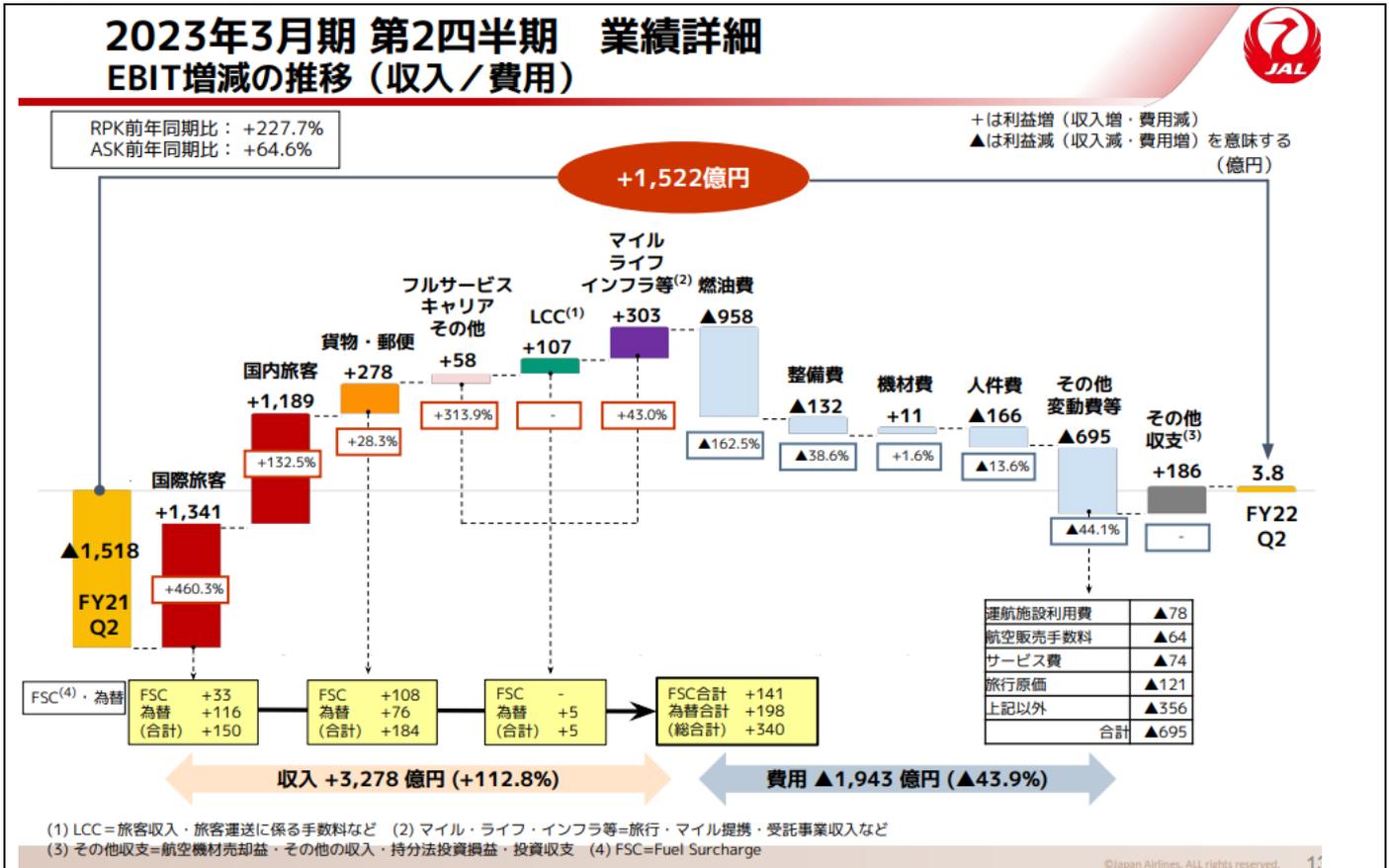
・EBITDA=税引前利益+減価償却費、EBITDA マージン=EBITDA÷営業収入

【内際の収入構造を比較】

★JAL 半年間決算 21 億円の赤字も旅客需要回復で大幅改善(NHK. 1101)

日航の 4 月から 9 月までの半年間のグループ全体の決算は、最終的な損益が 21 億円の赤字でしたが、前の年の同じ時期の 1049 億円の赤字からは大幅に改善しました。旅客需要が回復し、半年間の売り上げが 6185 億円と去年の

同じ時期の約 2.1 倍に増加したことが主な要因です。7 月から 9 月までの 3 か月の最終利益は 174 億円の黒字に転換しました。四半期ごとの決算が黒字になるのは、新型コロナの感染拡大前の 2019 年度の第 3 四半期以来、2 年 9 か月ぶりです。来年 3 月までの業績の見通しについては、国際線の旅客収入が増加するとして、売り上げを 140 億円増やし 1 兆 4040 億円としました。ただ最終利益は、燃油コストがかさんでいるため、450 億円の黒字という予想を変えませんでした。



(JAL)

JAL	国際線 FSC(前年)		国内線 FSC(前年)		LCC(前年)
	4-9 月	(7-9 月)	4-9 月	(7-9 月)	
2022 上期	4-9 月	(7-9 月)	4-9 月	(7-9 月)	
旅客収入(億円)	1632(291)	1008	2086(897)	1206	115(8)
旅客数(千人)	1742(353)	1014	13717(6155)	7636	
座キロ(百万)	16402(10742)	9305	17455(10694)	9268	
旅キロ(百万)	11574(2442)	6775	10554(4582)	5985	
利用率 LF (%)	70.6(22.7)		60.5(42.9)		
イールド	14.1(11.9)		19.8(19.6)		
ユニットレベニュー	10.0(2.7)		12.0(8.4)		
単価(円/人)	93707 (82392)		15212 (14582)		

(JAL貨物)

	2022/4-9	2021/4-9
国際貨物収入(億円)	1090	808
国際貨物重量(千トン)	235	248
国内貨物収入(億円)	97	107
国内貨物重量(千トン)	139	111

(JAL系LCC) 2022/4-9

	ZIP	スプリング・ジャパン	ジェットスター・ジャパン
旅客収入(億円)	74	36	
有償旅客数(千人)	162	208	2102
利用率 (%)	39.1	53.4	77.8

注: JAL国内線は大圏コースなのでANA比較のため「JAL国内線=キロ÷0.85」

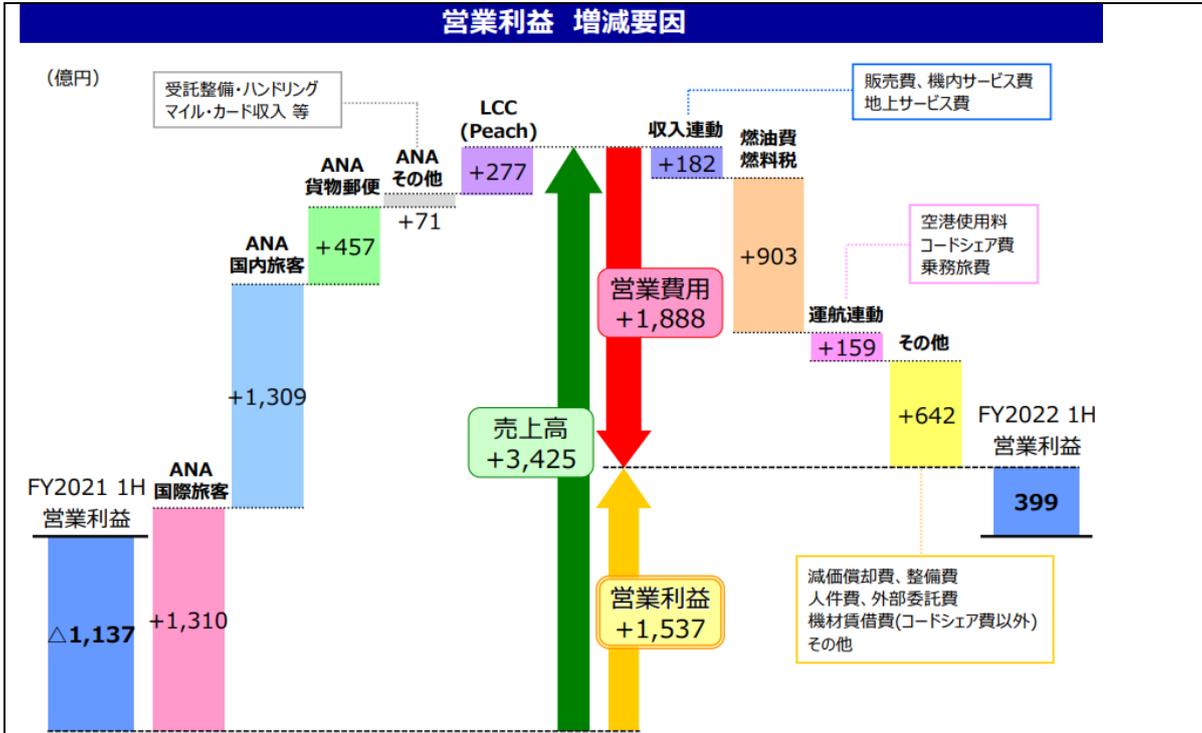
- ・イールドYield=収入÷旅客キロ (旅客1人1キロ当たり単価)
- ・ユニットレベニュー(座キロ当たり単価)=収入÷座席キロ=イールド×利用率

(ANA)

★中間決算 9 月期 3 年ぶり ANA 黒字に (時事. 1031)

・旅客数回復、通期予想引き上げ

ANA ホールディングスが発表した2022年9月中間連結決算は、純損益が195億円の黒字（前年同期は988億円の赤字）となった。中間期の黒字はコロナ禍前の2019年以来、3年ぶり。国内の行動制限や日本を含む各国の水際対策が緩和され、旅客数が回復してきたため。2023年3月期通期の連結業績予想は上方修正した。9月中間期の売上高は前年同期比83.4%増の7907億円。営業損益は314億円の黒字（同1160億円の赤字）となった。7～9月の国内線旅客数はコロナ前の74%の水準に回復。国際線は日本からの出張需要増なども取り込み、35%まで持ち直した。2023年3月期の連結業績予想は売上高1兆7000億円（従来予想1兆6600億円）、純利益400億円（同210億円）。



ANA	国際線(前年)		国内線(前年)	
	4-9月	(7-9月)	4-9月	(7-9月)
2022 上期	4-9月	(7-9月)	4-9月	(7-9月)
旅客収入(億円)	1614(304)	991	2428(1118)	1407
旅客数(千人)	1660(327)	975	15150(7140)	8581
座キロ(百万)	14710(9433)	8506	23913(15159)	12829
旅キロ(百万)	10713(2247)	6324	14092(6635)	8116
利用率LF(%)	72.8(23.8)	74.4	58.9(43.8)	63.3
イールド	15.1(+11.4)	15.7	17.2(+2.2)	17.3
ユニットレベニュー	11.0	11.7	10.2	11.0
単価(円/人)	97227(+4.8)	101665	16028	16401

(LCC ピーチ)

2022 上期	4-9月(前年)	(7-9月)
旅客収入(億円)	408(130)	252
旅客数(千人)	3684(1554)	1981
座キロ(百万)	6031(3254)	3137
旅キロ(百万)	4208(1777)	2269
利用率LF(%)	69.8(54.6)	72.3
イールド	9.7(7.4)	11.1
ユニットレベニュー	6.8(4.0)	8.0
単価(円/人)	11076(8422)	12742

(ANA 貨物)

	国際線 4-9月 (前年実績)		国内線
	ベリー+フレイター	フレイターのみ	4-9月
2022 上期	ベリー+フレイター	フレイターのみ	4-9月
貨物収入(億円)	1835(1383)	776(507)	118(121)
輸送量(千トン)	424(476)	197(204)	122(120)
有効トンキロ(百万)	3331(3388)	1225(1156)	663(437)
有償トンキロ(百万)	2202(2516)	795(810)	138(136)
重量利用率LF(%)	67.3(75.4)	64.9(70.1)	22.7(33.9)
イールド	83.3(55.0)	97.5(62.7)	85.7(88.4)

ユニットレベニュー	55.1(40.8)	63.3(43.9)	17.9(27.7)
単価(円/kg)	432(291)	393(248)	97(101)

- ・ユニットレベニュー(円) = 貨物収入 / 有効貨物トンキロ
- ・イールド(円) = 貨物収入 / 有償貨物トンキロ
- ・重量単価 = 貨物収入 / 貨物輸送重量

(航空事業/計画前提)

ANA	国際線		国内線	
	上期実績	下期計画	上期実績	下期計画
前年比%				
旅客数	+406.6	+405.7	+112.2	+74.7
座キロ	+55.9	+88.9	+57.7	+35.9
旅キロ	+376.7	+358.9	+112.4	+76.8
利用率LF(%)	72.8	72.4	58.9	66.3
イールド	15.1	15.8	17.2	16.8
ユニットレベニュー	11.0	11.4	10.2	11.1
単価(円)	97227	94995	16028	15277

(JAL 通期収支予想)

(億円)	2021 年度	2022 年度(22.11.01 予想)	2022 年度(2.02.02 予想)
国際旅客収入 FSC	687	4040	4070(+30)
国内旅客収入 FSC	2351	4710	4450(-260)
貨物郵便収入 FSC	2183	2380	2270(-110)
LCC 収入	29	350	300(-50)
燃油費	1454	3220	3220(-)

(ANA 通期旅客収入予想)

(億円)	2021 実績	2022 当初予想	2022 修正予想	前年差
国際旅客	701	3020	4000	+3298
国内旅客	2798	5960	5320	+2521
貨物郵便	3617	3400	3660	+42
LCC	378	1090	990	+611

【2022 通期見通し比較】

JAL			2022年度(2023/3)	ANA		
220801	221101	230202	億円	220428	221031	230202
13900	14040	13580	売上高	16600	17000	17100
800	800	500	財務法人税前利益/営業損益	500	650	950
			経常損益	300	550	850
450	450	250	親会社所有者帰属当期損益/当期損益	210	400	600
	800	500	EBIT/EBITDA	2035	2105	

注1: 上期 ANA は上方修正、第3 四半期は収入・利益とも上方修正

注2: 上期 JAL は収入を上方修正したが利益見通し据え置き、第3 四半期は収入・利益とも下方修正

国内旅客需要は回復スピードが想定より遅れ、1-2 月は全国旅行支援再開による需要増が限定的、加えて需給バランス緩和等により国際貨物収入も想定を下回る見込み。

営業費用は160 億円の減少を見込み、ほぼ燃油費は想定通りに推移、燃油費以外の費用は着実に削減

